

## はじめに

時として、哲学はひどく専門的で複雑な顔を見せることがあります。哲学の専門用語や手続きは、初心者にとってとつつきにくく、専門家でさえ理解に難渋することが多いのです。哲学のコツを学ぶには、手術のコツをつかむように、たくさんの知識を身につける必要があります。また、道具を使いこなす正確さやスキルも欠かせません。哲学で使うツールを取りまとめた本——『哲学の道具箱』をそんなふうに受け取っていただければと思います。けれども、この本がみなさんに提供するのは概念であり、外科医や木工職人の使うような道具とは違います。哲学の概念や論証や理論を分析したり操ったり見定めたりするための道具なのです。

『哲学の道具箱』にはいろいろな利用法があります。哲学的思索の要点について学びたいと思うなら、全体を読み通すのがいいでしょう。哲学の基本的方法やクリティカル・シンキングの教科書を使うという手もあります。また、リファレンス・ブックのような使い方も可能です。一般読者のみなさんも哲学の専門家も、大切な概念や哲学の方法について簡潔な解説を手にしたいのならページを開いてみてください。要するに、概念の道具箱としてこの本を役立て欲しいのです。蓋を開ければ、初心者から玄人までの誰もが、いろいろなテキストのあちこちに散らばっている道具や、学ぶのにたいへん時間のかかる道具を取り出すことができる、そんな小箱として。

この本は六つの章に分かれています。その章立ては、論証の基本的なツールに始まり、哲学の込み入った概念や原理へと進んでいきます。論証を評価するための道具について説明し、本質的な法則や原理や概念上の区別を紹介し、最後には哲学的思考の限界にまで話は及びます。

各章は幾つもの短い項目からできており、ツールの説明や使用例、適用範囲についてのガイダンスが載っています。各項目が他のどの項目と関連があるかも示してあります。また、読書案内も設けておき

ました。

彫刻の名匠になるには、ツールを手にとつて使う能力だけでは足りません。ひらめきや才能や想像力が必要ですし、訓練を積むことも大事です。おなじように、哲学のツールの使い方を学んでも一夜で哲学の達人になれるわけではありません。それでも、『哲学の道具箱』が提供するさまざまなスキルや技能は、哲学的なものの考え方へ習熟する手掛かりになることでしょう。

## 謝 辞

本書の構想段階でニコラス・ファーンにお世話になりました。彼の影響は本書のいたるところに残されています。ジャック・ファーロングとトム・フリンには、「ラジカルな批判のためのツール」の章の項目編成にお力添えをたまわりました。校閲担当の匿名氏には、本書を徹底的に吟味していただきました。ブラックウェル社のジェフ・ディーンには、単なる素敵なアイデアでしかなかったものを現実の本——それが素晴らしいものであることを著者たちは願うのですが——にまで育ててもらいました。編集者のエルド・バルクホイゼンには、とても丁寧な仕事をしていただきました。執筆活動を我慢強く支えてくれたビーターの妻と子供たち——キャサリン・フォスル、アイザック・フォスル・ヴァン・ワイク、ライジヤ・フォスル——にも感謝を捧げたいと思います。